

韓国微生物検査学会(KSCLM)参加報告書

参加者: 9 名 (国際委員 2 名; 島川、和田)

島川宏一(国立感染症研究所 所外研究員)	伏脇猛司(大阪複十字病院)
中山麻美(東北大学)	稲垣薫乃(藤田医科大学病院)
松尾由佳(名古屋医療センター)	長沢光章(国際医療福祉大学)
藏前 仁(刈谷豊田総合病院)	坂上伸哉(SRL, Inc.)
和田直樹(札幌徳洲会病院)	

〔行程〕 : 11 月 14 日(木) 渡韓・ソウル市内にて合流

15 日(金) 検査室見学; Yonsei University Severance Hospital, Seoul
Seoul National University Hospital, Seoul

16 日(土) 대한임상미생물검사학회 학술대회 参加, 日韓会議
(大韓臨床微生物検査学会秋季学術大会)

17 日(日) 解散・各自帰国

〔発表〕 シンポジウム:

「항산균검사의 DS」 Takeshi Fushiwaki
(邦題: 抗酸菌検査の DS)

ポスター発表

「Evaluation of MALDI-TOF mass spectrometry coupled with ClinProTools as a rapid tool for toxin-producing *Clostridioides difficile*」 Asami Nakayama

「Annual trends of nontuberculous mycobacteria (NTM) species and antimicrobial susceptibility at a university hospital in Japan」 Yukino Inagaki

「Clinical Implications of Change in Method of reporting Gram Stain Results for Positive Blood Cultures」 Yuka Matsuo

2024 年 11 月 16 日に開催された大韓臨床微生物検査学会に、本邦から 9 名が参加しました。今回の参加では、シンポジウムおよびポスター発表を行い、また、学会中には韓国の 2 つの病院検査室を視察する貴重な機会を得ました。

シンポジウムでは、伏脇先生が抗酸菌検査における DS についてご発表されました。このテーマは韓国側の関心も高く、日本における実情について多くの質問が寄せられ、活発な討論が行われました。また、ポスター発表では、本邦から 3 名の先生方が研究発表を行い、多くの韓国の参加者が聴講されました。さらに学会中に、ソウル大学病院(約 1,700 床)と延世セブランス病院(約 2,400 床)の検査室を視察しました。両病院は病床数の規模が非常に大きく、微生物検査室の体制は本邦の標準的な検査室と比較しても、非常に充実している印象を受けました。特に、質量分析器、自動同定感受性機器、血液培養自動分析装置などの複数の測定機器を、診療科や検査材料や菌種ごとに適切

に使い分けていました。

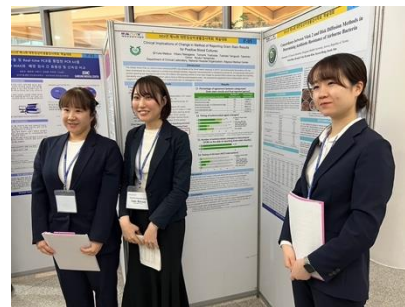
最後に、今回の学会参加と視察を通じて、日韓両国の微生物検査の現状を深く学び、相互の課題を共有する意義を再認識しました。今後も引き続き、日韓両学会の交流を一層深めるとともに、本邦の微生物検査の向上に努めていきたいと思います。



ファン・ユヨン会長(右)と
島川国際委員



伏脇先生



左から中山先生、
松尾先生、稲垣先生



文責:和田